

千葉家

昔も今も変わらない姿がそこにはある。
堂々とした姿に、見る者はその魅力へ引き込まれる―。
本特集では、10年間の改修工事を前に、
千葉家の魅力とその可能性に迫る。

序章 遠野の宝

綾織町の山の麓に、城のようにそびえ立つ、国指定重要文化財・千葉家住宅(以下、千葉家)。約180年

前の江戸時代に建てられ、国内最大級の曲り家としてその名が知られている。

千葉家は、母屋と馬屋がつながる南部曲り家の建築方式で建てられ、人と馬とが共存してきた息づかいが今でも感じられる。ひとたび足を踏み入れると、昔懐かしい空間が広がり、時間が経つのも忘れてしまうほど、その魅力に包み込まれる―。

数々の歴史を刻んできた千葉家は、来年度から10年間の改修工事に入る。「遠野の宝」である千葉家の魅力を後世に伝えていくために、私たちができることは何か―。10年後、その先の未来を見据え、ともに考えていこう。



千葉家を象徴する印

千葉家の屋号を表すもので歴代の当主が名乗った「山谷川喜右衛門」の山(やま)と喜(き)を取り、この印になったと言われている。



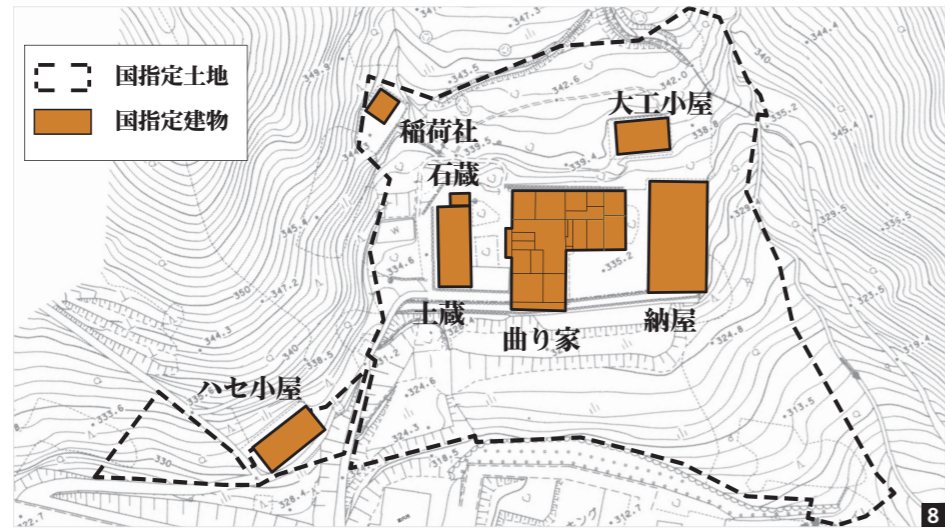
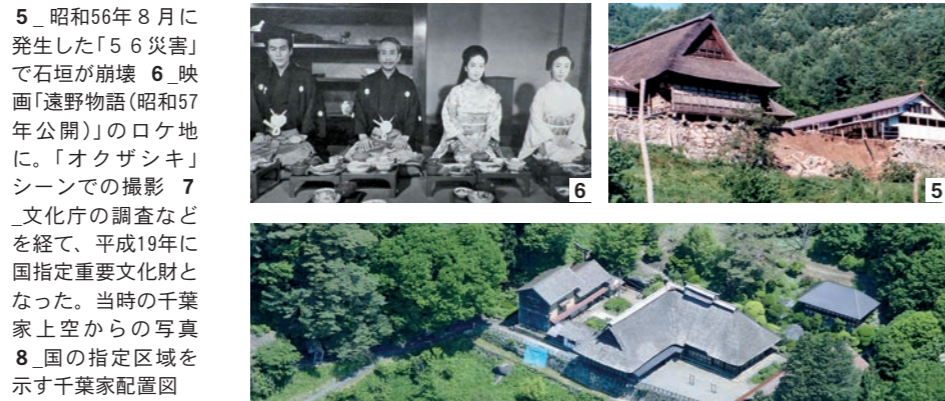
写真 / 冬の澄み切った青空の下、石垣付近から千葉家を望む

千葉家は 曲り家の頂点



東北工業大学大学院教授
高橋 恒夫 さん
Tsuneo Takahashi
(重要文化財千葉家住宅保存活用委員会委員)

岩手県の代表的な民家形態の一つとして、主屋の土間から馬屋を正面に突き出した、いわゆる「南部の曲り家(以下、曲り家)」があります。国の指定や保存などされている曲り家は、全国で約30棟。中でも千葉家は、その景観や屋敷構え、主屋の規模などから見ても、曲り家の頂点に君臨しており、文化的価値が高い建物です。まさに、「日本のふるさと遠野」のシンボルと言えるでしょう。千葉家を「遠野の宝」そして「国の宝」として、後世に残していくべき、偉大な建物なのです。



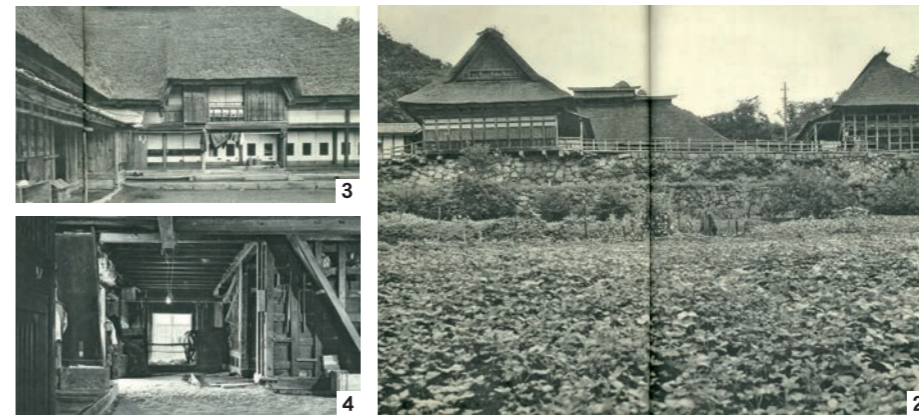
の生活を支えてきました。当時の千葉家の暮らしぶりには、10人の小作人と4人の女中、18頭の牛馬により大規模な農業を営んでいたほか、盛岡城下まで行商していたと伝えられています。

千葉家は、江戸時代に建設された曲り家の中でも、国内最大級の大きさであることから、文化的価値が極めて高い建物なのです。

「国の宝」に指定

千葉家が全国から注目されたのは、テレビ番組で全国中継されたことがきっかけ。以来、全国各地から多くの見学者が訪れ、遠野を代表する観光名所となりました。千葉家は、洗練された建築技術が施されていることから、平成19年に国指定重要文化財に指定。千葉家の名がさらに全国へ知れ渡りました。

平成27年 (2015)	平成26年 (2014)	平成25年 (2013)	平成23年 (2011)	平成19年 (2007)	平成17年 (2005)	平成16年 (2004)	昭和58年 (1983)	昭和56年 (1981)	昭和53年 (1978)	昭和49年 (1974)	昭和47年 (1972)	昭和46年 (1971)	
・千葉家まつり開催。来場者数は1千人を記録	・大規模修理が決定(平成27年度〜平成35年度)	・映画「蝸ノ記」のロケ地に「千葉家保存活用委員会」と「千葉家の活用を考える会」が設置される	市が公有化(宅地、建物、周辺の山林を含む)	東日本大震災により、石垣の一部が崩壊。国庫補助により修復	「国指定重要文化財」に指定	有識者らによる詳細な学術調査が実施される。翌年には「千葉家住宅調査報告書」を刊行	市有形文化財に指定	映画「遠野物語」のロケ地に、翌年の入館者数は、5万9千533人を記録	「56災害」で石垣が崩壊	皇太子殿下浩宮様がご来館	民宿を営むため、曲り家を大改造。屋根の葺き替えも実施。有料公開を始める	無料公開を始める	NHK「ふるさと」の歌まつりで全国中継され紹介。これを契機に見学者が急増する



1_稲荷社前の写真。鳥居の奉納を記念した祭り、郷土芸能が披露された(明治時代) 2_千葉家正面からの写真。石垣の下は畑で、納屋はかやぶき屋根(昭和30年代) 3_今の玄関はまだないが、2階の窓は現在と同じ形(昭和30年代) 4_馬屋で馬を飼っていた写真(昭和30年代)

千葉家の由来

千葉家の先祖は、江戸時代の豪農で、村役人の重要な役割を担う「肝煎」を務めるほどの有力者でした。言い伝えでは、先祖は、鎌倉時代の源氏の武士で、戦国時代の戦いで敗れ、遠野に逃れてきたという。後に、遠野南部家の家来となった時に、「千葉」の名字を名乗ったことが、千葉家の始まりとされています。当時、苗字と刀を持つことが許されていた身分から、多くの土地を所有する権力者であったことがうかがえます。

国内最大級の曲り家

千葉家は、天保年間に、時の当主、四代喜右衛門が飢饉で困窮した村人を助けるために、約10年かけて建てたとされます。当主は、農業などで村人を雇用するなどし、人々

昭和33年 (1958)	大正14年 (1925)	明治45年 (1912)	明治18年 (1885)	明治4年 (1872)	明治3年 (1871)	慶応元年 (1865)	嘉永2年 (1849)	天保4年 (1833)	天保元年 (1830頃)	寛政4年 (1792)	天正18年 (1590頃)	文治5年 (1189頃)
「日本の民家」(伊藤ていし著)で紹介される	宮城県塩竈産石材を用いて「石蔵」が建設される	現存する「土蔵」の建設が始まる	千葉家が初めて「岩手新聞」(2月20日付)に掲載され、その威容さが紹介された	五代喜右衛門の息子である千葉喜十郎が上綾織村長に就任	四代喜右衛門が亡くなる	五代喜右衛門が、「千葉」の苗字を名乗り、「千葉喜右衛門」となる	千葉家の氏神を祭る稲荷社を建立する	大雨による洪水や冷害による凶作が続き、大飢饉に襲われる(天保7・9年)	「曲り家」「大工小屋」「ハセ小屋」の建設が始まる	「曲り家」の建立者、四代喜右衛門が誕生する	山谷川を名乗る	千葉家の先祖が源頼朝の奥州藤原氏追討に従う。その後、葛西氏家臣大原氏に仕える

千葉家の歴史

第一章 刻む、歴史

千葉家の歴史は古く、約180年前にさかのぼる。国内最大級の曲り家として有名になったゆえんとは。千葉家の歴史をひも解き、その文化的価値に迫る。

千葉家の未来を 市民協働で創造



市遠野文化研究センター文化課
文化遺産係主任兼学芸員

あつし
黒田 篤史 さん
Atsushi Kuroda

(千葉家などの文化財保護全般を
担当)

平成28年度から施工される保存修理工事は、建築以来、初めての大規模な修理です。建物は、一度解体し、部材などの調査を実施。その結果に基づいて、復元案を設計していきます。

大規模修理を前に、千葉家の活用を考える会の皆さんをはじめ、多くの方が千葉家の有効的な活用について、さまざまなアイデアを出しています。市はその思いをしっかりとくみ取り、実現に向けた取り組みをしていきます。

これまで、千葉家は、多くの自然災害に見舞われながらも、現在にその存在を残してきたことは、奇跡と言っても過言ではありません。代々の千葉家の当主は、この建物に誇りを持ち、保存と生活を両立させながら、苦心の末にこれまで守ってきました。次は、私たち市民がその思いを受け継いでいかなければなりません。「遠野の宝」千葉家が遠野のまちづくりの核となるよう、千葉家の未来を市民協働で創り上げていきましょう。

千葉家の将来像

市は、以下の3本柱で千葉家の魅力を最大限に引き出していきます。市民の力を結集させ、千葉家から遠野の元気を発信していきます。

1 守る

Protect

10年後、さらにはその先の未来の千葉家を永久的に守る取り組み

▶かやぶき職人などの専門的技術者の育成▶曲り家や納屋など、すべての建物・石垣・地盤の修理▶防災設備の充実、災害への対策▶千葉家裏山にスギを植林し、修理材の確保につとめる



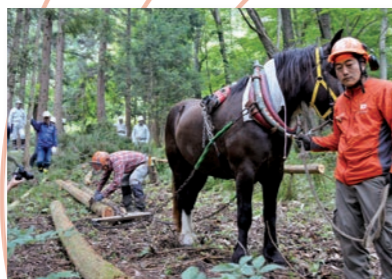
かやぶき職人の技術が必要とされる千葉家

2 活かす

Utilize

千葉家そのものの魅力を活かす取り組み

▶伝統継承の場…①定期的な補修で伝統技術を継承②馬搬の技術を活かしたスギ林の手入れ▶癒しの空間…迫力ある千葉家の眺めと周辺の景観▶歴史・文化を学ぶ…千葉家の暮らしぶりを再現した体験活動



千葉家の裏山で行われた馬搬の体験

3 支える

Support

千葉家を守り活かすためには、マンパワーが欠かせない。支え合う力で千葉家の魅力を遠野の元気にする取り組み ▶市民…後世へ伝える役割▶有識者…千葉家の文化的価値を発信する役割▶行政…守り活かすための連携を図る役割



千葉家を活用し、郷土芸能を披露する地域住民

千葉家大修理のための「ふるさと納税」にご協力を

市は、「ふるさと納税」を通じて、千葉家の整備事業を応援してくださる人を募集しています。詳しくはお問い合わせください。

ふるさと納税(寄附金)とは…個人、団体、法人を問わず申し込みいただけます。寄附金額のうち、2,000円を超える部分については、一定の限度額まで所得税と住民税が控除されます

申込方法…市HPにある寄附申出書に記載し提出してください
問い合わせ…市経営企画部(☎62-2111)

遠野市 ふるさと納税 検索



老朽化が課題に

かやぶき屋根の葺き替えから、約30年が経過し、千葉家の老朽化が浮き彫りに。そこで、市は平成16年市有形文化財に指定し、保護に乗り出しました。また、平成25年に専門家が実施した調査では、▽曲り家のかやぶき屋根の劣化▽馬屋付近の地盤沈下▽稲荷社背後の巨石崩落の危険―などの問題が報告されました。建築から180年経ち、老朽化は深刻な状況に陥っていたのです。「この問題を何とか打開し、守り続けたい」。この思いから市は、平成25年、曲り家などの建物のほか、周辺の景観保護のため山林などを含めた千葉家周辺を公有化。ついに、行政主体となる保存活動が動き出したのです。



経年劣化で主屋のかやぶき屋根が傷み、鉄板で覆う

大規模修理はチャンス!

千葉家の存在は、全国に遠野の名を発信し続けています。また、その効果は、観光客の増加や周辺地域の活性化など、さまざまな成果をもたらしています。10年後、千葉家が生まれ変わる時、その効果はさらに高まることでしよう。大規模修理をチャンスと捉え、千葉家が、地域活性化の起爆剤として活用される仕組みづくりを、今から、進めていかなければなりません。

千葉家の力をさらに生かすため、市は千葉家の将来像を①守る②活かす③支えるの3本柱として掲げました(次ページ)。あなたも一緒に、千葉家の未来を形にしていきたいませんか。

奮い立った地域住民

「遠野の宝を守るために、私たちも動かなければ」と奮い立ったのが、地域住民による「千葉家の活用を考える会(及川博弘会長)」。同会は、平成26年度に設立され、千葉家の利活用方法を生み出すだけでなく、有識者による学習会を開き、その文化的価値を見つめ直しています。会員は、10代〜80代の幅広い世代で、地元住民のほか、移住者も参加して

千葉家改修工事概要

(平成27年4月~平成37年3月)

工事内容 / 平成28~31年度: ①曲り家、土蔵、石蔵、大工小屋、稲荷社、ハセ小屋の解体 ②石垣の積み直し ③柱や梁などの部材調査 平成31~36年度: ①解体した建物の復元工事 ②門や塀、柵などの外構工事 ③展示工事

総事業費 / 約19億8,000万円(うち国庫補助金12億3,000万円)



ワークショップを通じて、利活用のアイデアを出し合うメンバー(千葉家の座敷にて)

います。同会は、積極的にワークショップを開き、それぞれの視点で多彩なアイデアを出し合っています。例えば、千葉家を遠野の迎賓館とし、郷土料理などのおもてなしで癒しの空間を提供する―など、知恵と工夫を凝らしたアイデアが次々と生み出されています。今後、彼らの活動から目が離せません。

第二章

守り、活かす

千葉家は国指定重要文化財となり、全国からさらに注目を集める一方で、老朽化が深刻となっていた。この問題を打開するために、市と市民が立ち上がった。

キーパーソンが語る千葉家の未来

千葉家のこれからの期待を寄せる4人に「千葉家の未来」についてインタビューした。彼らが描く千葉家の未来とは一。



伊勢崎 克彦 さん
=宮守町鱒沢= 41歳

地域を豊かにする きっかけに

私は、人と馬が共存する昔ながらの暮らしを再現し、地域の魅力を高めたいと、千葉家周辺の山林で馬搬の技術継承に取り組んでいます。

利活用を考える時、農業や林業など千葉家以外の地域資源も生かしていくことが大切だと思います。千葉家の改修は、地域を豊かにする大きなきっかけです。この地域の10年先を見据えた取り組みを、今から展開していくことが、必要だと感じています。



木村 美智 さん
=綾織町= 遠野高2年

曲り家ならではの 魅力を伝えたい

千葉家では昔、民宿を営んできた歴史があるそうです。田舎暮らしが注目されている今、千葉家を活用し民泊体験ができたらいいですね。実際に馬がいたら曲り家の仕組みも分かると思います。人と馬の暮らしぶりが味わえる曲り家の民泊は、田舎暮らしの良さをPRすることにもつながると思います。千葉家の存在は私にとって誇り。10年後、今度は私が遠野の子どもたちに千葉家の歴史を伝えていきたいです。



千葉 隼輔 さん
=綾織町出身= 福島大学4年

地域の力で千葉家の 未来を育む

私の家は、千葉家の分家にあたりと知り、活用を考えるきっかけになりました。千葉家は電気もガスも無い時代から、農業などで生活に困窮する人々を支えてきたことを学びました。「支える力の大切さ」。私自身、東日本大震災を機に、復興支援を通じて、地域の伝統を守り継承することの大切さを感じています。地域と共存する力が千葉家の未来につながり、これからの遠野の力につながると感じています。



菊池 ナヨ さん
=綾織町= 67歳

美しい景観と調和 する千葉家の魅力

私は女性の視点を生かした地域づくりに取り組んでいます。千葉家の歴史に触れた時、地元の宝で地域を元気にしたいと使命感が湧きました。他県の文化財などを視察し気付いたことは、遠野の四季折々の美しさ。桜並木や田園風景など、千葉家は周辺の美しい景色があるからこそ魅力的なのだ気付いたのです。遠野の宝を守るのは地元に住む者の役目。遠野の魅力と一緒に作り上げたいと思います。



1_千葉家上空からドローン(空中撮影用装置)にて撮影。多くの来場者が訪れた 2_華やかに練り歩く花嫁行列 3_座敷での昔ながらの結婚式 4_地元の郷土芸能も披露 5_縁側で祝い唄を披露。多くのカメラ愛好家が詰め掛けた

「千葉家を後世に受け継いでいきたい」と奮い立った地域住民。彼らの情熱は、私たちが感動と喜びに包み込んだ。彼らの思いとは一。

第三章 つなぐ、思い

情熱が感動を呼び起こす

ハレ舞台に笑顔の花が咲き、「遠野の宝」が感動に包まれました。10年間の改修工事を前に、「千葉家まつり」は11月2・3の両日、同所で行われました。千葉家の活用を考える会の企画第1弾として開催され、昔ながらの花嫁行列や結婚式など、昭和初期の祝い事を再現。まつりの主役である花婿・花嫁は、綾織町の昆和彦さん(36)・勝子さん(31)で、昨年9月に結婚したばかりの夫婦。訪れた地域住民や観光客ら1千人は、二人のハレの日を祝福しました。

「昔の趣きのある結婚式や料理を再現してみたい」。活用の話し合いを重ねる中で、生み出されたのが昔懐かしい結婚式でした。同会のメンバーは、昨年の7月から会議を重ね、知恵を出し合い、形づくってきました。千葉家の魅力を生かした手作りのおもてなしは、訪れた人々を昔懐かしい風景にいだき、感動と喜びに包み込みました。

「千葉家の活用を考える会」会員募集

あなたの新しいアイデアで、千葉家の未来を切り開いてみませんか

会費…無料 会員特典…①千葉家入場料無料(本年3月まで) ②千葉家に関する学習会などへの優先参加 **活動内容**…ワークショップ、学習会、視察研修、民俗調査への協力

申込方法…電話で申し込みください
問い合わせ…市綾織地区センター(☎62-2838)

遠野市 千葉家 活用 検索



大修理前
見るなら、今！

千葉家の室内も見学ができます
あと 3 カ月
見学期間：
平成28年3月31日まで

この広報を持参の方
2名様まで

見学無料

最終章

永遠の、輝き

千葉家代々の当主は、千葉家に誇りを持ち続け、180年もの間、ずっと守り続けてきました。その思いは、今私たちの手に託されています。今を生きる私たちが手を取り合い、次の世代へとつないでいかなければなりません。

市民協働の取り組みが徐々に動き出しています。「守り、伝えたい」。その思いを遠野市民が共有し、千葉家を遠野の宝として磨き上げることで、千葉家はさらに輝きを増すはずです。あなたも一緒に千葉家の未来、遠野の未来を考えていきましょう。そして、千葉家から生み出される数々の夢を、私たちの手で実現させていきましょう。

「永遠の日本のふるさと遠野」の象徴。そして、「遠野の宝」である千葉家。

冬の夜空にそびえ立つ千葉家の上には、満天の星が輝いています。市と市民の思いが一つになった時、「遠野の宝」は、太古から輝く星のように、10年後も、20年後も、100年後も輝き続けるのです。

◎特集「千葉家」終わり

満天に輝く星のように、遠野の宝「千葉家」は永遠に輝き続け、その光は、永遠の日本のふるさと遠野を照らし続ける一。